

令和2年度

定着支援研修

リモートバージョン Vol.1

十勝障がい者
就業・生活支援センター



令和3年1月5日（火）に初の試みとなる Zoom での定着支援研修、“定着支援研修リモートバージョン”を開催いたしました。今年度はコロナ禍の影響を受けて、定期的な大規模研修を行えない状況でしたが、今回は当センターが事務局を務めている「雇用促進・就労定着プロジェクト」の参加企業から在職者向け研修の希望があったことをきっかけに企画させていただきました。

共通のテーマで話がしやすいよう、社会人経験5年以上の男性を対象をしぼり、さらにリモートでも円滑なやり取りがしやすいように少人数グループでの意見交換を行わせていただきました。

当日は、まずリモートの環境に慣れるために自己紹介や近況報告などを行いました。話題はやはり、今年度避けては通れない“新型コロナウイルスによる仕事や生活での変化”が中心でした。実際に参加者からは「担当業務に消毒が加わって仕事量が増えた」「買い物や趣味のための外出を自粛するようになった」とのお話を伺いました。ただ、その中で「1人の時間を自然に作れるようになった」「自宅での過ごし方を考え直した」「外出を控えた分、ネットスーパーを使い始めてむしろストレスが減った」という変化を逆手に取った前向きな考え方が聞かれ、それぞれに参考となる意見が多く出されたことが印象的でした。

そして研修の後半には、今後の生活プランについて、自身の思いや体験談を含めて語り合いました。社会人経験を積み重ねる中で、仕事のスキルアップだけでなく、私生活とのバランスを見直し、新たに生活面の目標を持つ時期に差し掛かった方ならではの話題だったと思います。また、生活面とのメリハリがつくと、仕事の取り組みに還元されるなど、良いサイクルが生まれているようです。

研修中の様子（Zoom画面）



※掲載にご了承いただいた方の写真を資料として使用しております。

リモート研修では、一般的に集中力が低下しやすかったり、参加者同士のコミュニケーション量が減ることが多いとされています。そのため不安の中での開催ではありませんでしたが、今回のグループでは全くそのようなことはなく、1時間半の研修はあっという間に終了しました。同様に参加者もリモートへの不安はあったようでしたが、「自分と社会人経験年数が近い方の話を聞いて良かった」などの感想とともに「自分とは違う世代の方の話も聞いてみたい」という新たな要望もいただきました。

今回は参加者の“研修から積極的に学びたい”という意欲と、リモートでのルールやマナーを守る心遣いがあったからこそ、初のリモートでの定着支援研修を無事に終えることができました。この場を借りて改めてお礼を申し上げます。また、企画側としても本研修を通じて、主体的に話し合っただけの場の提供や、自身の思いを話したり他者のアイデアに触れることでの気づきの機会を得る大切さを再認識しました。今後も職場定着に向けた取り組みとして、参加者や所属企業にご理解とご協力をいただきながら、対象者やテーマをしぼった様々な方法でのリモート研修のご案内をしていきたいと思っております。